

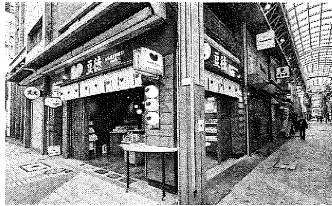
徳永製菓(株)

大鼓判
押します!!



(公財)ひろしま産業振興機構
ものづくり革新統括センター
販路開拓支援担当 課長
下桶隆史さん

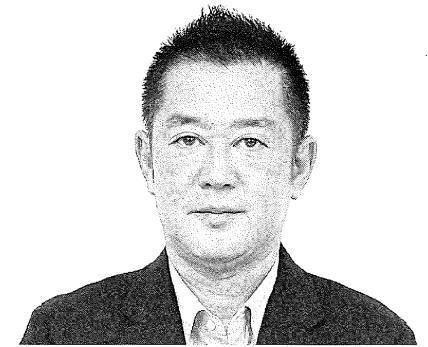
コロナ禍というピンチをチャンスに変えようと
逆風下で船出した「浅草店」



「竹炭豆」のほか、ユニークな季節商品も多数取り揃え、地域に親しまれる「豆徳」。最近では「しまなみナッツファーム」プロジェクトにもチャレンジ、明治2年から代々つないできた歴史に今後どんな1ページが加わるのか! 大注目です!!



ナッツファームで苗木の植えつけ作業をする社員や子どもたち



ASEAN諸国など海外展開も視野に入れている
上迫社長

世界に誇れる豆菓子づくり

瀬戸内の島で育む国産ナッツ 海を渡る老舗豆菓子メーカーの挑戦



ズラリと店頭に並ぶ「豆徳」ブランドの人気商品

風光明媚な瀬戸内の島に、アーモンドやマカダミアナッツなどを育てる「しまなみナッツファーム(農場)」が誕生した。栄養価の高さからナッツ製品の人気は高いが、原材料の多くは米国やインドからの輸入品。国内では単一種の栽培事例はあるものの、何種ものナッツを栽培育成するのはきわめてめづらしいという。

この農場を運営するのは広島県福山市の(株)徳永製菓、国産ナッツを使った製品加工を視野に入れているという。創業は1869年(明治2年)、「豆徳」の屋号で知られ、竹炭豆、抹茶みるく豆など落花生にさまざまな味をコーティングした豆菓子のほか、野菜・果物チップスを製造している。だが、原材料は多くが海外産だ。「アーモンドの花は桜のようで、ピスタチオは香りが良い。海外では鑑賞用に栽培している人もいるほどだ」と8代目の上迫豊社長(56歳)。そして「瀬戸内海は温暖で台風が少なく、イタリアのピスタチオの産地やレモンの産地もよく似た気候。思い切って挑戦しよう」と農場経営に乗り出したという。

動き出せば風は吹く。「レモンとナッツの島に」というコンセプトを前面に出したところ、行政からの協力も得られ、尾道市と愛媛県今治市を結ぶ瀬戸内しまなみ海道の中間地、柑橘畑が広がる生口島の高台(尾道市瀬戸田町)の耕作放棄地約2800平方メートルを借りることに成功。昨年春には社員とその家族ら約40人が、30センチから1メートルのナッツ6種の苗木70本を植えた。育成作業ははじまったばかりだが、同社営業部の佐野明日香さんは「初の農業経験は新しい発見ばかり。参加希望の社員が多いので、効率的なローテーションを考えていきたい」と期待を寄せる。

一方、本業の豆菓子製造については、2002年に竹炭豆(製造特許取得)を開発して原点回帰。05年に豆菓子直営店「豆徳本店」を開設し、17年にはあらたに大門工場(福山市大門町、1278平方メートル)を竣工、翌年FSSC22000(食品安全システム認証)を取得した。20年にはコロナ禍を出店チャンスと捉え、東京に浅草店をオープン。インバウンドも戻りはじめ、追い風が吹きはじめている。上迫社長には、ある矜持がある。「豆徳」ブランドを再構築した17年前、毎月、新商品を出すことにしたのだ。以来、同社は営業や開発部、本店長ら7名からなる開発会議を重ね、社員たちのアイデアを形にした200種近い商品を市場に送り出してきた。ちなみに、この12月の新商品は豆にホワイトチョコをコーティングし、高知産ほうじ茶のパウダーをたっぷり塗した「ほうじ茶ちょこ豆」だった。

海外展開にも意欲的で、約20年前から台湾や香港、スイスの百貨店などで商品を販売しているという同社。今後は欧州の展示会にも出展予定だが、ASEAN、とくにタイやベトナムでの展開を模索中だ。いずれは国産ナッツが実を結び、海を越えるようになるはずだ。

社長の自社採点

企画開発 = ☆☆☆
営業力 = ☆☆☆☆
成長力 = ☆☆☆☆
収益力 = ☆☆☆
地域貢献力 = ☆☆☆

人材力 = ☆☆☆
専門性 = ☆☆☆☆
リサーチ力 = ☆☆☆
計画性 = ☆☆☆
リスクマネジメント = ☆☆☆☆

HPはこちら!!



広島県福山市胡町4-21
☎084-922-2710
設立 1869年
従業員 50名
資本金 3000万円